

奈義町立こども園建設工事基本設計業務プロポーザル 二次審査講評

本プロポーザルの二次審査は、一次審査（書類のみによる）において選定された5者を対象として実施しました。審査に先立って、審査委員全員立会いのもと広く一般の人々に公開によるヒアリングを行いました。1者あたりプレゼンテーション10分、ヒアリング15分の時間配分がなされました。

このヒアリングを終了後、8名の審査員が評価項目毎に評価点を持ち寄りました。評価点に基づき、各々が専門分野を中心に見解を表明し議論を十分に尽くしました。最終的には、議論を踏まえた上で各審査委員が評価点を確定し、その合計をもって候補者及び次点を決定しました。なお、評価基準に示した通り二次審査において一次審査の評価点は加算されていません。

審査の評価項目は、意欲、業務の理解度、提案内容、設計コストの4点です。意欲及び業務の理解度については、いずれの提案者も高評価であり大きな差は認められませんでした。

ここでは、提案内容に示された空間構成、園庭環境、周辺環境との連携、景観、安全と安心、設計プロセス、その他独自の提案、の7つの評価基準を中心に、5者の審査講評を示します。

【受託候補者】44 楠山設計・マウントフジアーキテクトスタジオ設計共同企業体

園舎は東西に伸びる通り土間（ナギミチ）を軸として、片流れのナギヤネを交互にかけたシンブルな構成である。屋根のない部分は三方を囲われた庭となり、保育室と外部空間が交互に配されることで内外空間との密接な繋がりを確保しているのが特徴である。屋根は、那岐山の稜線と呼応する勾配を持ち、リズムカルな並びが地域に新しい景観を生み出している。地場産の木材を用いたCLTを用いたもので、工期短縮と工事コストの低減につなげようとしている点が独自の提案となっている。ナギミチの内外空間としての扱い方、上下足の運用の仕方などについては、内外空間を活かした保育のあり方の実現と密接に関連しており、設計課題として検討されるべきである。また、河川氾濫時の安全確保についての懸念が指摘された。

解決すべき課題はあるものの、新しい建築的な提案により従来のこども園にない環境を作り出しており、全体として景観、園庭環境に対する評価が極めて高く、受託候補者として評価された。

【次点者】13 株式会社 SUEP

園舎としては大きく6つに分けられ大きな折れ屋根を持つ分棟が、通路空間として機能するデッキによって繋がっている。敷地内の高低差を巧みに活かし、園舎、園庭、遊具などが立体的な動線で繋がり、多様な学びと遊びの場を創り出している。一方で、悪天時や気候の厳しい季節のデッキを使った園児や職員の移動、異年齢の交流などについて課題が指摘された。子どものための小さなスペースと樹木で囲まれた園庭については極めて高い評価がなされた。また分棟と勾配屋根が作り出す景観が奈義の風景に調和している点、東側の駐車場に面して地域利用ゾーンを設定し町に開かれた構成としている点は高く評価され、次点者としての評価を得た。

08 株式会社浦辺設計

敷地中央部に職員室とホールが置かれ、そこから3方向にウィングが伸びることで、園舎全体に目の届きやすく、面積の増減に対応しやすい平面構成が提案された。3歳未満児のための芝生

園庭と3歳以上の園児に土の園庭が用意され、いずれも子どもの五感を刺激する魅力的な仕掛けが用意されている。これらに加え災害に対する防災の考え方、避難所施設としての機能など、安心安全面についての技術提案を含めて全体としてバランス良い提案が示された。その一方でウィングをつなぐデッキの耐久性や悪天時の運用方法、園舎外観の大きなボリュームによる景観上の課題が指摘された。

29 株式会社みかんぐみ

中庭を園舎が取り囲んだ回遊性のあるプランが提案された。中庭を土間通路が取り囲むことで、園舎内部に半屋外的な保育活動を可能とするユニークな空間構成である。また、異年齢の園児や町民同士の交流の場としても位置付けられ、園全体の一体感が強い。駐車場の配置、豪雨対策、隣接する民家への配慮などについては設計者としての主張を持ちつつ、今後の設計プロセスにおける柔軟な対応姿勢が示された。しかし、求心性のある平面構成により、敷地周辺や町に対する関係性が弱く、外部の園庭環境、周辺環境との連携、景観という観点での評価につながらなかった。

34 遠藤克彦・E-DESIGN・黒川建築設計共同企業体

5者の提案のうち、唯一敷地北側に園庭を配置した案である。園庭と中央広場との空間的関連性の強化を目指すものである。駐車場に面したチャレンジスペースや、地域から子どもを見守る人材としてのマイスター育成など、こども園を拠点としたまちづくり活動へ展開させる独自の考え方が示され、周辺環境との連携、設計プロセスの項目において評価を得ることができた。一方で広戸風に対応する防風対策、あるいは園庭への日当たり不足など懸念事項を抱えている。園舎は外形上直線的であるが、内部動線はクランクさせることで領域を形成しているが、管理上の課題が指摘された。

最後に、発表いただいた5者の皆様が多大な労力を費やし、素晴らしいプレゼンテーションをしていただいたことに深く感謝いたします。これから基本設計の策定に向けて業務がスタートしますが、新しいスタイルの園舎になることに対し、職員の方々に戸惑いや不安が生じることが想像できます。受託される業者には、子育て世代をはじめ職員の方々などの意見を柔軟に取り入れ、十分な議論を尽くしていただき、提案をよりよい設計に発展させていくことを期待します。

今後、奈義町では中学校の改築も控えており、保育・教育環境への関心はより一層高まっていくことが予想されます。こどもたちの成長過程において、重要な役割を担うことになる本こども園が素晴らしいものになることを切に望んでいます。

令和元年 12月 11日

奈義町立こども園建設基本設計業務プロポーザル審査委員会

委員長 鈴木 賢一